



45
5130

別冊各通旨趣ニ付テハ口頭ヲ以テ申上ルキノ處一先ッ書面
ヲ以テ奉呈仕候猶又夕本議會ニ於テ質問書呈出致テ得
共別冊各通旨趣ヲ敷衍スルニ外ナラズ御事務中ニテ得共
事体切迫、折柄ニ付キ被害氏ノ既往ヨリ呈出致シ候諸請願
始末書等御參照御覽被下度假謹言

明治三十一年十二月 日

田中正造

海軍大臣山本權兵衛殿

昭和三年五月一日
五十嵐良晃 氏贈

別冊各通旨趣ニ付テハ口頭ヲ以テ申上ルベキノ処一先ッ書面
ヲ以テ奉呈仕候猶又々本議會ニ於テ箇間書呈出致美得
共別冊各通旨趣ヲ敷衍スルニテ外ラズ候御繁務中ニ至得共
事倍切迫ノ折柄ニ付キ被害民ノ既往ヲ呈出致シテ諸請願
始末書等御參照御覽被下度矣謹言

明治三十一年十二月 日

田中正造

内閣總理大臣侯爵山縣有朋殿

別冊各通旨趣ニ付テハ一々口頭以テ申上ルキ、但一先ッ書面
ヲ以テ奉呈仕テ猶又夕本議會ニ於テ質問書呈出致テ得
共別冊各通旨趣ヲ敷衍スルニ外ナラズ、又御繁務中ニテ得共
事体切迫ノ折柄ニ付キ被害民、既往ヨリ呈出致シテ諸請願
始末書等御参照御覽被下度、美謹言

明治三十一年十二月 日

田中正造

内務大臣候爵西御從道殿

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "田中正造" and "明治三十一年十二月" visible through the paper.)

農商務大臣曾稱荒助殿

別冊各通告趣ニ付テ一々口頭ヲ以テ申上クキノ処一先ッ書面
ヲ以テ奉呈仕矣猶又夕本議會ニ於テ質問書呈出致矣得
共別冊各通告趣ヲ敷衍スル外ニ交々御繁務中ニ矣得共
事体切迫、折柄ニ付キ被害民既往ヨリ呈出致シ矣諸請願
始末書等御參照御覽被下度矣謹言

明治三十一年十二月 日

田中正造

別冊各通告趣ニ付テ一々口頭ヲ以テ申上クキノ処一先ッ書面
ヲ以テ奉呈仕矣猶又夕本議會ニ於テ質問書呈出致矣得
共別冊各通告趣ヲ敷衍スル外ニ交々御繁務中ニ矣得共
事体切迫、折柄ニ付キ被害民既往ヨリ呈出致シ矣諸請願
始末書等御參照御覽被下度矣謹言

田中正造

憲法保護ノ受ル能ハシキ義

憲法ノ保護ヲ受ル能ハシキ義

一 付再三ノ請願三十年十月一日陳情全十一月十五

憲法保護ノ受ル能ハシキ義三十日當局各大臣請願三十一年日所

憚リヲ示シ雖モ其ノ保護再三ノ請願ヲ行政府

ニ奉呈スルハ實ニ止ムヲ得ルニ出ル充分責

任ヲ實行ニ保護ヲ示シテ切望ノ至リ堪工

ス

一 足尾銅山鑛毒ヨリ來ル人馬加害ノ為ノ多年

所有權ヲ侵テシテ在ルニ從未行政府ハ法

律ヲ無視シテ毫モ之カ保護ノ道ヲ立テシメ

入コトナシ

二 被害土地荒廢ニ至ル年々其產出力ヲ減シ從

憲法

テ收獲ヲ減スルニ拘ラズ政府ノ之ニ對セシ
處置ナクハ此等ノ土地免租ノ一策ニ出テシムル
シ然ルニ此等ノ事々々ト天災ニ依リテ然ルニ
ナラズ最初ヨリ人為加害ナラズトハ政府タ
ハモノ學理上ニ於テ熟知スル處ナリシカモ
政府ハ此人為加害ヲ加ヘテ免租地人民ノ公
權ヲ奪去シタリ
三在ノ外ノ多年法律ヲ保護ナキ夕ノ我々僅炭
ノ痛苦ハ堪エニ能ハズシテ被害ノ等之又屢
々中央ノ政府ニ訴レトスルハ地方官等常
ニ之ヲ遮ルニヨリ請願ノ時期ヲ後ニシト多
年今テ激甚ナル侵毒其任居テ侵毒ノ父子皆起

電話號碼五八四 東京區元龜會館町一、一六成社印行

卧其処ヲ得テ究因却迫ノ余リ之ヲ中央政府
ニ訴テハ止ムヲ得ナシハ憲兵警吏忽々之
ヲ逐フテ我々請願ノ通路ヲ妨害スルヲ常ト
セリ
四在来ノ地方官及中央當局ノ官吏等常ニ法律
ヲ無視シテ何等ノ調査ヲナサズ却テ加害者
ニ加担シテ此種ノ至ラシメタルモノヨリ數
万人民ノ生業ハ多年前ヨリ為ニ中止セシ
ムルニモノヲ今更ニ之ヲ掩閉セシトスルハ何
等ノ意趣ゾ
五被害ノ等ハ人為加害ノヲメニ權利名譽ヲ奪
ハレ衛生ヲ害セラシ健康ヲモ損傷シ發育榮

養ヲモ賦セラシム此場合ニ於テ政府ヨリ
 之ノ之ヲ救ハス
 二被虐未ダ甚カシナル土地ト云凡人為加害
 ノ為メ賣ル土地ノ生産力ヲ失ヒ收穫ト肥料
 カトク損スルノコトナラス併セテ工業養蚕漢
 業家畜等ノ收利ヲ奪ハル利ハ耕作勞働肥
 料費ノ増加ト諸請願等ノ以貴ヲ高メ一方ニ
 賣買上土地ノ價格ヲ下落セシメ全村土地
 一對スル実力ト財産トヲ賦失セシ結果其土
 地免租トナシト同時ニ公權名譽ヲ奪ハシ
 ヲ失ワテ之賦セシ村カヤリ此種ノ村人ニ
 所村自治ノ制度ヲ適用スル能ハス其状推テ

電話新編五八四 東條温元監修第一、二大蔵印行

台湾土人ニ於ケルカ如クニテ剝ハ術王ヲ害
 ンルニ現在法律上ハ權利不養財産ヲナシ
 然ラズ猶將來ニ加害ノ深酷ト在ルハ必
 然トシ然レバ此人為加害ノ為メ一村奪テ
 人類ヲ絶ハシトス又國家ノ一
 大要素ヲ人數万所失ハ土地ヲ失フ不明カナ
 リ然レバ當局者ノ冷淡此ニ顧慮スル所簿キ
 何ヲヤ今下國家ノ一部ヲ一或ハ一村ハ此
 人為加害ノ為メ全ク破滅セリ然レバ政府ハ
 見テ以テ之ニ警メノ氣色ナキノコトナラズ却
 テ其狀ヲ掩ムルコトヲ其之賦セシ村庶ヲ侮
 辱スルニ為格ノ官吏ヲ派シテ管掌セシメ其

費ヲ收メ之シ政府自ラ手ヲ下シテ被害
民ヲ侮辱虐待スルモノナリ之レ頗ル怪疑
堪エテ凡所ナリ斯レ如キモ尚政府ナリ憲
法ナリ法律ナリト云フヲ得ルカ

鑛毒被害土地恢復願 明治三十年三月十七日請願

一 鑛毒被害土地恢復願、現在ノ被害地ハ板
木群馬場玉諸縣回復ノニナリ又カ土流岸毒
土流下ノ防止ナルヲ以テ時來濃厚トナリ
中被害地即チ渡良瀬利根ノ沿岸下流地及
千葉東京等ノ沿岸ノ加害ヲ豫メ避クルハ
義ヲ有ス

電話新橋五八四 東京區元龜番地一、一六號社印行

二 本年再度ノ洪水ニヨリ鑛毒没入地見分ノ
事ハ殆作ノ未ク所取ラレテ以前ノ如ク相
願度事

三 免租継年期願、趣旨ハ其繼續被害ヲハカ
ヘテ未ク防害方法ノ確守ヲハスナリ
ナラズ山岳蓋々崩潰ニ洪水頻繁ニシテ没害
ハ増スルハ尤減スルノ見込ナク為之テ請願
ヲナシ、凡所ナリト云フヲ得ルカ

河身浚深堤防改良新設願 (三十一年十月二十二日請願
三十一年九月十六日請願)

一 渡良瀬川河身改修大工事費ハ測量ノ結果九
ノ一千三百万円ノ豫算ナリトハ地方内閣ノ



トキ、於ラ調査終了七ニテ、ナリ然レ、現
政府、至リ更ニ再測量ヲナセルヲ見ルモ未
メ河床毒砂液深堤防増新築等ノ実行アハラ
見ス而シテ洪水ヨリ来ル鎖毒ノ加害ハ水深
山岳崩潰河床理高ノ結果ニヨリ頻年益々増
加スルノ状勢アリ現ニ本年九月七日ノ出水
ハ之ヲ二十九年ニ比シテ一層十ニ倍アハル
二十九三十九年度ノ出水ニヨリ河床ノ理高又
幾段ノ多キヲ加工ニヨリ其雨量多キヲ出
水量亦多キ比較的多キヲサハ、固ハラス其傍
害ハ二十九年度ヨリ一層激甚ナリモ、ナ
リシヲ見テ知ルハ一ニシ

皇正統五八四 東洋電報社發行 一六六號

衛生調査顧問 三十九年十月八日附稿 在十一月十二日
衛生調査顧問 明治二十四年以來帝國議會全衆
議院ニ於テ衛生ノ注意ヲ加メタリ茲ニ
八年然ルニ前内閣ニ至ルマテ嘗テ調査ノ報
告ナリ否云々報告ナカリシノ事ナリ其具調
査ナカリシニ然ルニ三十年ノ春衆議院ノ
攻撃ニ逢ヒ之ニ對シテ力ヲ爲メ兵僅カニ其
医学博士ヲ派遣セシメ其尉役所ニ於テ被害
地農民夫妻ヲ呼出シ多數ノ尉吏ニ會シ上
右ノ夫妻ヲ裸体トシテ大ニ便ヲ從カシテ具
便糞ヲ分解セリナリ如此被害民ヲ侮辱セシメ

一

者アハヲ以テ世人却テ天災ノ如ク之ヲ救フ
ノ意ナリ又之ヲ救フノ由ヲ云ハス故ニ其害
ヲ却テ彼ノ天災地変ヨリモ慘酷ナリ然レ
屠ノ上ニ出ルモノアリ故ニ顧ミテ政府ハ之
ヲ救フヲ能ハスニハ寧ロ之ヲ救フノ勝レ
スノアリルヲ思ハシム可クラス

町村自治破壊ノ町村国庫

補助願

三十一年九月廿八日請願

一町村自治破壊ノ事ハ其来久全村ニ減シ至テ
ナリ村々ト岳氏加害ノ猶將來ニ経続ス一
事矣下ニヲ以テ有限ナリ一年二年ハ負担

電話番五八四 京都府元龜郡町二二六 大藏省

以テ弥縫ニ得ルナリ夫レ一時ノ
天災地変乃至普通洪水ノ如ク無毒ニシテ災
害ノ單純ナルモノト至テ其後因テ
ナレ得ルニト岳氏鎮毒ノ被害ニ至テハ極
ニ複雑ニシテ且將來ニ経續スニテ殊ニ其鎮
毒稀薄地ノ如クハ容易ニ被害ノ有無ヲ判
別ナシモノアリ今其後ノ統計ヲ示シテ鎮毒
稀薄地ノ例トシテ当初鎮毒ノ加害ナキ時
在ラハ既に二十年間其收穫一及歩ハ付キ未
ニ不ク得ルニ田地在テ昨年末ニ石本年
亦同之ノ二石ヲ獲タリトスルニ其收穫ノ石
日ニ於テハ一合一斗ノ減損ナリ又皮想ナリ

不し、稀作青々トシテ之レ恰モ無害地ノ如
 キ觀テリ然リト至ル鐘毒水ノ被害ハ唯夕收
 獲ノ外目ノミヲ以テ標識ス可カラサルモ
 下リ左ニ其略計ヲ示シ
 一 田舎及歩 現收穫ニ石 田ノ如シ
 一 藁ノ燻ヲ損シ
 一 肥料力ヲ損シ
 一 末質ノ損害(量目ヲ減ス)
 一 土地賣買價格ノ下落(他無毒所村地價
 騰貴ノ比例ヲ見レ被害地ト雖近來一
 般ノ土地價格ノ伴ハ勢アリトスル
 其比例ノ著シク差異アリト見レ

電話番五八四 東橋區元靈寄附町一六 大成社印行

以上ノ如ク已往數十年前ハ天然ノ肥料力充
 分ニシテ土地肥沃ナリシヲ以テ勤勞少クシ
 テニ石ヲ得今ハ肥料費ノ増用一及歩五六月
 日ハ八九日若シテ十日ノ多額ヲ要スルヲ以
 テ收穫ハ田ノ如キモ其見ルニサハ肥料ノ損
 害致田ニ至ルモノアリ加フニ米質ノ粗悪
 ヲヨリテ市價賦少土地賣買價格ノ無害地
 伴ハナク計集ニ免祖ノ金額等ハ到底
 其年ヲ償フニ足ラサルハ最モ觀易キ計算ナ
 リ加フニ鐘毒被害ノ事情百般ノ複雑ヲ物
 色テ言ハルカ凡人生不幸災害ノ種目有形無

形一モ之ヲ具マテハナク所ノモノナレハ一
且其浸害ヲ破リタル土地、其土地全面ノ登
育ヲ妨ケラレシ土地、其民力衰へ智体振ハテ
ルノ境遇ヲ陥リ、アリ豈、彼ノ無経験ニ
シテ冷淡ナレモ、只稀田ノ青キヲ見收獲
ノ年月ヲ開キテ皮想ノ誤リヲ生シ此稀薄地
ノ損度ノ多額ナル事勅調査ラレテ又被害地
ヲ指シテ被害絶無ヲ云、如キ無経験者流ノ
知ハ所ナラシヤ
以上被害稀薄ナル土地、於テ既ニ然リ況レ
テ其稍ハ濃厚ナル土地、於テ亦テ甚
キモノニ至ラハ殆ト筆合人及テ所ニ
テ

電話新橋五八四 京橋區元愛寄屋町一 大成社印行

又其土地ハ不毛トナリ砂漠トナリ洵ニ人類
ノ住居、耐ユクモナラズ以テ所村費地
價割ノ欠損、之ヲ政府ニ請フテ之ヲ充定ニ
別、諸般回復ノ方法相立タラシムルヲ將來所
村ノ四体ヲ保存セシムル欲スルモノナリ
官有地ノ損害ヨリ来ル影響ニ
一官有地川沢池沼原野、被害損毛、国家ノ損
害ニモテ政府之ヲ黙許シ公許シテヨリ之ヨ
リ来スル附近人民ノ損害ハ次ノ如キナ
ノナリ
第一川沢池沼附近ノ漁獵者ハ明治十三年迄

栃木縣ノシラテモ二千六百余人アリ去ルハ
 群馬埼玉茨城ニ接属セシ莫鳥捕獲ノモ凡
 数千名ノ夥シキモノアリモ今ハ僅々數百
 人ニ減シ其トスラ今ハ水脈異ナシ無毒ノ枝
 川ニ属スル莫獵者ノモ此地所ノ辺等ニ住ス
 ル貧民ノ生業ヲ失フモノハ又可悲次第ナリ
 ナリ
 第二此官有地ニ属スル河川ノ收穫ノ多量ナ
 ルハ此川沃池沼莫鳥捕獲者ノ生業ノモナリ
 ス沿岸ノ往來農工商ノ人口ヲ繁盛セシメ
 所以ニシテ群馬縣ノ桐生栃木縣ノ足利西町
 ノ繁昌ハ昔初渡良瀬桐生西川等ノ水質ノ佳

皇統新編五八四 東條益元家書附一、一六版社印行

良ト莫鳥草木及夫然肥料舟揖等甚多ノ天産
 ニ富ムルヲ以テ往古自然ノ村ヲ為シヨリ
 今日ノ繁昌トナリ多シ一大原因ナリ今ハ
 悉ク官有地被害ノモノトシ大小人民ノ生業ヲ
 損害セラシメテアハアリス此ノ如キ所
 村ヲ保護スルハ政府ノ義務ノモトナリ不
 實スルモノアリ見テ傍觀スルニ至ツテ官
 有地ヨリ影響スル利害ハ加害者一人ノ便宜
 ニ任セテ多數ノ農高工ヲ顧ミ又現在政府ハ
 此暴行ヲナサセテアハハ皆法律ヲ無視ス
 ルモノナリ

救済願

一 損害金二千余万圓ノ賠償ニ之ヲ司法裁判ニ
 訴フヘキモノナリトモ政府監督ノ下ニ被害
 民ニ加害ヲ受ケツ、其被害地ヨリ多年間租
 税ノ義務ヲ免レ已レノ土地ヲ害サレツ、法
 律ノ下國家ノ財政ヲ充足セシムルノ義務ヲ
 免レシムル為メ多年前ヨリ完田交付切迫シテ
 今一旦夕ノ貸ニ若ムノレナラズ加フルニ憲
 法ノ保護ナク法律ノ保護ナク又所村自治ノ
 法律ヲ容ル、能ハクハモノスラ生セシトス
 ルノ悲シクハ縁シメ之ヲ訴フモ宜シク歳
 月ヲ経過シテ其処分ヲナサズ今年四月ニ至

電話新橋五八四 京橋區元寇寄附町一、一六號印刷

一 法律ヲ容ル、能ハクハモノスラ生セシトス
 ルノ悲シクハ縁シメ之ヲ訴フモ宜シク歳
 月ヲ経過シテ其処分ヲナサズ今年四月ニ至
 今一旦夕ノ貸ニ若ムノレナラズ加フルニ憲
 法ノ保護ナク法律ノ保護ナク又所村自治ノ
 法律ヲ容ル、能ハクハモノスラ生セシトス
 ルノ悲シクハ縁シメ之ヲ訴フモ宜シク歳
 月ヲ経過シテ其処分ヲナサズ今年四月ニ至
 今一旦夕ノ貸ニ若ムノレナラズ加フルニ憲
 法ノ保護ナク法律ノ保護ナク又所村自治ノ
 法律ヲ容ル、能ハクハモノスラ生セシトス
 ルノ悲シクハ縁シメ之ヲ訴フモ宜シク歳
 月ヲ経過シテ其処分ヲナサズ今年四月ニ至

一ツ、此歳月内憲法、保護ナキ政府ニ對シ
 憲法ノ保護ヲ行フ、悲ム一ノ境遇ニテキ
 何ナキ、被害土地ヲ前々ノ肥沃ナク納租
 地ニ復シテ納租ノ義務ヲ尽シメテシテ
 其銀妻加償ノ損害ニ對シテハ多年被害地
 日納稅之義務ニ對シテハ政府ノ救済ヲ請
 七其財産及衣譽等ヲ回復セテ自治ノ人民ト
 十其生命ヲ全ク又ハ其漸生上除害
 道相立候様先キ地方廳ヲ經テ請願致候
 知令般當局大臣ノ訓諭モ又地方ヲ經テ來
 此一ト、御指様、基キ即チ再ニナリ、地
 方ヲ經テ請願致候事

電話番五八四 京橋區元寶寄附町一、一六威社印行

右ハ各請願ノ要目ニ付其事實ノ一斑ヲ舉ゲテ
 ハモノニテ其實情、至テ一決ニテ此等ニテ申
 出シテハ以テ、無御坐過般各請願ト共ニ表出
 之々ニ始末略書ニモ大要ヲ申述置キ候間、御
 照祇下憲法法律等ノ保護相立候様奉懇願候
 副申
 拜謁ノ上、口頭ヲ以テ申上、可キノ處別冊ノ通
 運動ノ角所多キ、自今一ト先書面ヲ以テ奉
 呈仕候

明治三十一年十一月

栃本縣安蘇郡旗川村

甲中正送

請願運動部面ノ多キ被害民ノ奔命ニ疲レテ將ニ
倒レントスルニ付便宜ヲ與ヘラレ度ヲ参考書

請願運動部面ノ多キ被害人ノ奔走ニ疲
盡善盡美ニ將ニ倒シントスルニ付便宜ヲ與ヘ

請願運動部面ノ多キ被害人ノ奔走ニ疲
盡善盡美ニ將ニ倒シントスルニ付便宜ヲ與ヘ

從來政府ハ本問題ニ對シテ責任ナク却テ人民
ヲ欺キタルノ結果現今ノ大被害地トナリ此請
願運動ノ困難ナレバ實ニ名状スヘカラス且
他ノ請願ノ如ク方面ニ限リテハ普通ノ水害震
災積火海嘯風災等單一ナル諸請願トハ大ニ其
事体ヲ異ニシテ今ヤ其區域及土地ノ高低其種
類ノ雜多ニシテ慘怛タル其害ノ波及スル所諸
請願ノ方面モ又非常ノ多端ニシテ多年間加害
ノ慘狀ニ陷ルリ又將ニ慘狀ニ至ラントスル

アリホク 鐘毒稀薄人目ニ触レサルアリト虫氏
又將ニ被害地トナラントスルアリ現今スラ其
ノ毒地ノ區域数十里ニ涉リ皆ナ等シク将来激
甚ナル被害地トナルハ勿論其範圍モ更ラニ幾
倍ノ廣キヲ来スハ明ラカナル事實ニシテ其害
ノ一ツヲ示ラサルハ已ニ年々ノ侵毒地ニ合ハセ
見立ハ尚ホ将来ヲ察シ得ルモ又堤防破壊ノ爲
ヲ以テ一朝砂漠トナリ更ラニ侵毒ノ区域ヲ廣ク
スナリ其無形及ヒ間接被害ノ状態千差万別ニ
シテ此レニ衛生被害ノ加フルアリ故ニ請願調
査等運動ノ困難ニ堪ヘザルノミナラズ僅カニ
免租ノ処分アリト虫トモ 鐘毒被害ハ継続ニシ

電話號碼五八四 東京區元教習町一、一六東洋印刷

テ坊レヨリ發見スルキ新事實踵ヲ続イテ起リ
来ルモノナレハ請願人等ニ對シテ特別ノ便宜
御子へアツテ政府ニ責任ヲ持シ從來ノ願意貫
徹致シ候様相願候也
一從來ノ当局者力責任ヲ持セザル爲メニ被害
民ノ諸請願方面評所ノ日々ニ増加スルヲ見
ルモ多端困難ナルノ事情ハ一月ニテ知ルハ
シ亦多々踏者ノ責任ニ至ラテハ實ニ大ナル
者ナリ而シテ責任トハ例ハ自家ノ破壊ニ
タルハ已ニ自カテ修繕セザルハカラス決シ
テ他ノ指圖ヲ待テ可キニ非ラザルト同シク
自ラ進ニテ坊レカ修繕ヲナサザルハカラス

是し真カ責任ヲ尽スト云フ可ク今其順序中
央及ニ地方ニ於テ左ノ如シ

一憲法保護ノ請願、国体ヲ憚リ今日ニテ謹
慎罷在矣

一農商務省ノ責任ニ属スル事項ノ請願運動

一鑛山

二山林

三水産

四工務

五商務

六農務

右ノ外目下急務毒土取片付処分

二内務省ノ責任ニ属スル事項ノ請願運動

一治排水

二土木

三警保

四衛生

五縣道 (被害地人口凡三十万余)

右ノ外目下急務慘狀救助堤防改築新設
河床浚深

三内蔵省ノ責任ニ属スル事項ノ請願運動

一主税

二主計

三理財 (官民有形上ノ損喪目下四千万)

圓餘

四、文部省ノ責任ニ屬スル事項ノ請願運動
普通學務局(智体育ノ不備)

五、陸軍省ノ責任ニ屬スル事項ノ請願運動
壯丁ノ体格兵負減損

六、貴衆兩院ノ責任ヲ以テ調査審議ヲ仰キ度
請願運動

七、法制局ノ責任ニ屬スル事項ノ請願運動
法律案ノ新制(人為加害ヨリ町村自治

壞廢及渾テノ公権亡滅間接ニ渾テノ
權利削殺セラル)

以上ニ中央部ノ責任ニ對シ實踐ヲ需ムル請願

運動ノ方面ニ御座矣(點燈及ノ私交ノ能ハシ
國家問題)

憲政黨本部法律行政經濟國家社會ノ諸會大
日本衛生會、大日本農會、各種青年會等ノ研究

ヲ請フノ運動ニ屬スル事項ニ對シ實行ヲ需ムル
而シテ左ノ地方部ノ責任ニ對シ實行ヲ需ムル

運動及ニ調査研究ヲ請フ事ノ各部面モ亦互ニ聯
係スル者ナレハ何レヲ重シトモ何レヲ輕シト

モシヤ
一、地方廳ノ責任ニ屬スル事項ノ請願運動
各課ノ責任

二、郡級所ノ責任ニ屬スル事項ノ請願運動

町村役場ノ責任自身ニ亦請願者タリヲ
 以テ責任ノ重キ用務ノ多キ十九コト
 三、警察署ノ責任ニ屬スル事項ノ運動
 四、地方稅務署ノ責任ニ屬スル事項ノ請願運
 動
 五、縣會ノ責任ニ屬スル事項ニ因テ建議參考
 六、郡會ノ責任ニ屬スル事項ニ因テ建議參考
 七、町村會ノ責任ニ屬スル事項ニ因テ建議參考
 八、地方教育會自身ノ運動及ヒ研究ヲ請フノ

十、運動ニ關シテ
 學齡兒童体格及ヒ不純學生及ヒ退在校
 學生調査
 九、地方衛生會自身ノ運動及ヒ研究ヲ請フノ
 八、地方衛生會自身ノ運動及ヒ研究ヲ請フノ
 七、地方衛生會自身ノ運動及ヒ研究ヲ請フノ
 六、地方衛生會自身ノ運動及ヒ研究ヲ請フノ
 五、地方衛生會自身ノ運動及ヒ研究ヲ請フノ
 四、地方衛生會自身ノ運動及ヒ研究ヲ請フノ
 三、地方衛生會自身ノ運動及ヒ研究ヲ請フノ
 二、地方衛生會自身ノ運動及ヒ研究ヲ請フノ
 一、地方衛生會自身ノ運動及ヒ研究ヲ請フノ

一、調查及七之ヨリ生スル市場ノ盛衰
 二、及ホ又影響損害ニ至ル迄
 十二、蚕種業組合自身ノ運動及七研究ヲ乞フ
 運動
 幸園枯涸繭糸先次粘質減少等
 十三、地方農林會自身ノ運動及七研究ヲ乞フ
 運動
 山岳崩落及七水潦ニ関スルコト等
 十四、經濟法學會自身ノ運動及七研究ヲ乞フ
 運動
 臣民ノ權利義務ヲ奪ハレシニ伴
 地方經濟ノ利害

電話號碼五八四 東京區元町一丁目二六號印刷

十五、智力研磨、彈ヲノ青年會自身ノ運動及七
 研究ヲ乞フ運動
 十六、官有地林野池沼芝地等ニ對シ監理人ノ
 責任ヲ責ムル運動
 右中央部及七地方部ノ運動ハ町村會議員町村
 役場及七鑛毒事件委員等凡モノ直接責任ナレ
 トモ其各科種目四十二科目以上ニ涉リ其無經
 験ニシテ而カモ貧弱ナリ村落ノ及フ所ニアリ
 一、被害調查ノ必要凡ク左ノ如シ
 地理、地質、山林、治水、農業、水產、商工、經濟、法
 律、國家、行政、衛生、生理、動植物、理化、教育、倫

理、社会等ナリ、其他科学上ノ智識ヲ要ス
 几事美ノ互ニ聯係セル複雑ナル調査、陳
 情、請願、忠告、質問、應答、論議ヲ爲スノ必要
 アリト云モ、其等ハ、無識無資力ナル被害
 民等ノヨリ堪ル処ニアラス
 一本問題ハ、殆ニ上無形ノ如ク肉眼ヲ以テ
 對照容易ニ判別セ得ル程ノ稀薄ヨリ終ニ
 市中々々人畜ノ生命ヲ刻々ニ至ルマテノ至難
 ナ事ト性質ト兼有スル極悪ノ加害ナリト
 云モ、我國無經驗ノ肉題ナルヲ以テ被害入
 加害又十九ヶ年前ヨリ年ヲ追テ漸次
 増加害又倍加セリト云リト、其也之ヲ以テ

電話號碼五八四 東京區元町一丁目二六號印刷

不ルノ通ナレバ、知ラズ終ニ今日ノ大被害
 ヲ受テテ進退路頭ニ迷フニ至リテ悲鳴
 叫喚シテ悔ムニ至ル者、局責任者タル者
 ハ、最初ヨリ之ヲ知ルモノナレバ、今ニ及
 ンテ夢ノ覺メタル如ク、宛民等ノ請願ヲ
 待テ之ヲ取捨スヘキ迂闊ノ事態ニアラ
 ザルヲモ、孰知セルナラン、若シ夫レ誠実
 ナル各方面ノ当局責任アル者、及有識ノ
 士ノ見テ以テ等閑ニ附スヘキ問題ニハ
 ナラス
 一、今其毒域ノ範圍ヲ邦内ノ一國ニ求メハ
 伯耆能登ノ人口戸數ト稍比較スルヲ見

<p>テ驚クニ余リアリ足尾銅山鑛毒被害ノ地域、関東第一豊沃ノ土地ナリ亦其沿岸、概不底地ニシテ他ノ山間溪流ヲ通過スル狭小ナル毒地ト全一視スルキモノニ非ズ其ノ範圍ニ於ケル土地ト人民トノ死生浮沈ニ關スル統計ハ左ノ如シ</p>	<p>戸数</p>	<p>人口</p>
<p>伯耆</p>	<p>四六、三七三</p>	<p>二二〇、六八〇</p>
<p>能登</p>	<p>五五、八二二</p>	<p>三〇五、二四六</p>
<p>明治三十年七月 調査被害地統計</p>	<p>四八、六四五</p>	<p>二九三、六二一</p>

電話號碼五八四 東京區元數管轄町一、二大蔵印行

其居住、生業、營養、衛生、權利財產金融産業

教育結婚ヲ始メ禽獸虫魚草花木竹禾穀
 飲食流水風光其他ヲシテ人生ノ生活上
 必要ノ素ヲ奪ハシ扶養ヲ取ルヘキ者一
 概ナクモナク營養日ニ減シ死生且夕ニ迫ラテ
 現ニ他郷ニ逃シ去リカニテ得カレ村落
 一官民ノ損害有膨上計數シ易キモノ、之
 瓦ヲ金四千万円以上ナルニ不拘之レ
 カ恢復請願陳情ノ方面ハ已ニ四十余
 何ノ多技ニ涉レリトモハ其宛乏魚力
 被害人等何ヲ以テ力克ク之ヲ爲シ

得

一、加害者ハ天然ニアラスシテ人爲ナリ
人爲ナリテ以テ加害者ハ陰謀其害ヲ加
フルヲ止メカレ久シ今ハ殆ント天然ノ
如キ深醜ナル悪質トナリ而シテ其加害
ハ後來ニ継続セリ今其ノ一例ヲ尋クレ
ハ左ノ如シ

被害人ノ諸般ノ運動ニ疲勞セルハ多事間政
府カ法律ヲ無視シ政府カ加害ヲ傍觀シ且ツ地
情ハハキ被害民ヲ愚弄シ欺罔シタルヲ見テ地
方中ニハ維々奸曲ノ徒輩出シ又被害人ニシテ
被害ノ事實ヲ陰蔽シテ自ラ權利財産ヲ抛棄ス

電話號碼五八四 東京區元町三丁目二二大塚印刷

凡ノ至愚ナル請願運動ヲナシ又加害者ニ通謀
シ悲境極マル宛民ヲ責リテ利スルモノアリ甚
ニキハ有カノ士ト虽モ利害ノ爲メニハ間接ニ
本問題ヲ非難スルモノアル毎ニ我々被害民ハ
之ニ利害ヲ説キ權利ヲ争ハ私慾ヲ去ラシメ
テ公義ニ帰カシムル等ニ維多ナルニ之レニ及
ビ政府ハ益々責任ヲ放棄シ加害者ハ益々其悪
計ニ長シ今ニ及ブモ救助恢復救済保護ノ実行
ヲ妨ケス却テ請願書ノ辭句ニ苦情ヲ唱ヒ爲メ
ニ我々其運動ノ部門ノ多キト禱礼ノ煩ヒキト
ニ耐ヘズ今ハ被害ニ加ルニ莫大ナル請願運動
費ヲ要シ其奔命ニ疲シテ將ニ倒レントスルア

リ已ニ倒シタルモノアリ勢ヒ此ノ如クナレハ
被害民ノ力到底以調査ノ終局ヲ遂ケ正格実的
ナル請願ヲシテ諸方面ニ貫徹セシムル能ハサ
ルヲ悲々ノ折柄政府ハ又更ニ党派ノ事情ニ配
リシ或ハ一種云フヘカウサレ事情ニ襲ハレテ
ニテ免角ニ請願ノ道ヲ遮リ現ニ一昨年来請願
人ノ東京セントスルヤ之ヲ待リ槍毛竹籠蓆
旗ノ徒ニ於ケル如シ或ハ槍ヲ擡シ或ハ船ヲ奪
ハ或ハ要路ニ隊ヲ組テ之ヲ食止メ或ハ肉薄
ニテ被害民ニ突貫ヲ試シ或ハ宿泊飲食ヲ妨害
セテ疲憊甚ニク醫者ヲスルノ困難ニ至レル
ヲ憲兵ニ馬ヲ驅テ枕頭ヲ蹂躪スル等憲政治下

電話號碼五八四 東京區元町一丁目一六號印刷

ニ下ル入カテ井ル殺代ナル態度ヲ以テ被害民
ヲ威嚇虐待スル等之シ憲法ナク法律ナシト云
フノ外ナシ然レモ我々ハ斯カル乱暴狼藉ヲ學
ブモノニアラス又働クモノニアラス決シテ官
民党派ノ間ニ別ヲ立ツルモノニアラス又別ヲ
立ツルノ今カアルモノニアラス一意専心活路
ヲ求メシトスルノ外毫モ他意ナキモノニ候又
本請願ノ要目ハ之ヲ略記ニ被害ノ継続セシ
理由ヲ以テ一昨年来当局各大臣ヲ始メ帝國議
會ニテ再度請願致シ候得共固ヨリ事端ノ繁雜
アル意趣ノ半モ序述スルヲ得ズ遺憾頗ル多事
ナリ今其請願ノ要目ヲ詳カニセント欲セハ少

十ノモ 諸科ノ學士十名以上ヲ以テ 數百日ヲ要
 セルノ 調査ナリ決シテ 被害人ニ 求ムヘカ
 凡モノ 十リ 其ノ 一層ハ 只 請願陳情 調査等 運動上
 ノ 手續ノ 困難事情ヲ 察セヨシ 被害宛民ノ 請願
 二 対ニ 各自 局部及ヒ 地方廳等ニ 於テ 各々 責任
 下ニ 御運動ヲ 仰キ 度キ 爲メノ 参考局ニ 御座
 候
 国下 被害民ノ 何等ノ 罪アリテ 多年間 斯クモ 虐待
 ヲ 蒙ルルモノ ナルヘキカ 等ニシテ 是レ
 皇帝陛下 臣民ナリ 何卒 其ノ 緩急ニシテ 復
 雜ナルト 困難ニシテ 慘状ナル 其ノ 区域及ヒ 被害
 ノ 厚薄及ヒ 人畜 衛生被害ノ 大切ナル 正確ニ

皇正統五年八月 皇極元年 皇正統五年八月 皇極元年

于 明瞭ナル 御調査 アツテ 被害地 諸般ノ 請願ニ
 対シテハ 又 手續ヲ 相省ケ 被害民ニ 便宜 御与ヘ
 ノ 上 諸般 請願ノ 意旨ニ 貫徹 致シ 其 様 備ニ 奉 懇
 願 矣

明治三十一年十一月

四縣聯合鎮毒処分請願事務所

栃木縣安蘇郡旗川村

陳情人 田中正造

明治三十一年十一月 日 参呈

多々考

政府及被害民ニ對シ田中正造外公老責任

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

新報公報書月樓由中正造我公法書

新報

政府及被害民ニ對シテ
 田中正造外同志責任
 明治三十一年九月廿六日午後二時四十八分芝
 口三丁目旅人為信濃屋ノ一室内ニ設ケタル鑛
 毒事務所ニ飛電アリ館林ヨリ至ル日ヲ被害民
 今出發ス其數一万余人ナリト正造ハ別室ニ
 リ會ニ此日ハ群馬縣邑樂郡渡瀬村雲龍寺ニ大
 集會アルコトヲハ兼テ承知セシメ此出發ス
 トヲハ豫知セリキ而シテ今此ノ報ニ接セリ
 後聞ク所ニ依レハ当日ノ集會者大凡八九千人
 ナリレハ會議ハ端ナク一變シテ人負亦邊カニ
 一万三千余人トナリ今日午後一同出京スルニ

至ルルヲリト
二十七日 午前九時五十分飛電又至ル曰一万
余人此地ニ来リリト蓋シ一行中幸手駅ヨリ祭
セシモノニ係ル
今 一時五十四分又飛電アリ杉戸駅ヨリ至ル
曰一同道行スト
之ヨリ先ニ二十六日夜ヨリ二十七日午前ニ
涉リ飛電ノ至ルモノ前夜七回所報ノ區々ナル
ヲ以テ邊ニ信ニ難ニトセリ然ルニ被害民ノ追
行已ニ此所ニ至リ政府ノ警戒防止ニ急ナルト
聞ニ及ニテハ正造又黙視スル能ハス乃チ内務
省ニ至テ情状ヲ陳シ且ツ無益ノ衝突ヲ避ケ又

電話新橋二三七(京橋區加賀町)協信舎印行

濫リニ請願人進行ノ道ヲ妨グルヲ望ミテ
リニニ警保課員等亦之ニ同セリ但シ此ノ時内
務省ハノ電報ハ千人ヲリト全課員ハ誌ヒリ
今 七時二分又飛電アリ越ヶ谷ヨリ至ル報中
露宿云々ノ事アリシカハ大ニ驚キ且ツ痛憂ニ
堪ハス急ニ越ヶ谷ニ向ニ出發ノ用意ヲナス此
時事務所員ナルモノ一人ニ居ラス即チ二十八
日ノ午前一時栃木縣人須永金三郎山田友次郎
ノ二人ヲ留メテ留守セシメ群馬縣人友野彦次
郎ヲ伴ヒ前々日未ノ病ヲ推シテ請願人一行ノ
道行先ニ向テ途半住ヲ過キ巡查二名ノ橋ヲ衛
ルヲ見ル已ニシテ南足立郡洲江村ニ達ス洲江

村ハ東京府下ナリ時ニ鷓鴣三時車夫等空腹耐
ハ難キヲ訴フ乃ケ旅舎亀屋ニ投シテ飯ヲ炊カ
シム正造ノ車夫朝来馳駈今走今ハ疲レテコタ
歩スル能ハス乃ケ食后ノ一憩ヲナリシメ正造
亦其間ヲ以テ病軀ヲ休養ス一睡凡ソ二刻強拂
晚旅舎ヲ祭シテ北道ニ岡村字保木間ニ至ル時
ニ午前六七時ノ交騎馬ノ憲兵五騎南スルニ逢
ノ蓋シ最初防止ヲ試シシモ力及ハスレテ千住
ニ退却スルモノナラン既ニシテ請願人一群凡
ソ百人余進行シ来ルニ途ヲ巡查一人群ニ先キ
達ケテ来ルナリ正造之ヲ我カ傍ヲニ招キ諭シ
テ我左右ヲ去ラサシム即ケ巡查利ヲ通シ千

電話新橋一三二七京橋區加賀町一協信舎印行一

住警察署詰ニ竹本有末ト云フ巴ニシテ関江
村々長坂田庄助来リ利ヲ通シ蓋シ此地ハ関江
村ハ北端ナリ
待ッコト暫時ニシテ請願人ノ一群又踵ヲ至ル
乃ケ村長ヲ頼ミテ近傍農家ノ庭園ヲ借ラシメ
請願人ヲシテ之ニ入ラシム既ニシテ請願人ノ
沓至ルハモノ教群農家四五ノ庭園立錫ノ地ナ
ク後レ至ルモノ皆道路ノ兩側ニ充塞ス村長坂
田庄助始メ村會議員等斡旋最メ努力村社氷川
神社ノ境内ヲ借リテ請願人ヲ此ノ大庭ニ集合
セシム其数凡ソ二千四五百人被害人中切實ニ
テ訴フルモノアリ曰吾々ク早川田ヲ祭ル時

総教一万千余其大半ハ警吏ノ威嚇ニヨツテ追
 帰カレ残り来レルモノモ亦取テ奪ハレ橋ヲ擁
 テテレ其大半ハ威力ノ爲メニ割マシレ或ハ虐
 待酷遇至ラカルヲ爲テ遂ニ泣ク吞ンテ帰村
 セタルノ已ムヲ得ルニ至リ依テ我々一行
 ハ道ヲ転シテ昨夜越ケ谷付近ニ露宿セシ
 矣ノ之状ナル夜半島ヲ驅ツテ吾々露臥ノ頭上
 ニ聞入レ其蹂躪ニ逢フテ輒輒爲散爲メニ溝塍
 ニ陥リ負傷セシモノアリ若シ警吏ノ虐待喜矣
 蹂躪ニ逢フナクニハ茲ニ至ルモノ必ラス一
 万人ノ上ニ出テ然ルナラシト
 既ニシテ喧囂漸ク静クナリ乃チ各着ル所ノ藁ヲ

電話新橋一三二七京橋區加賀町一協信舎印行

敷テ休息ス此寺人負ハ頭ル多敷ナル如クナレ
 トニ鐘毒被害地百數十ヶ村ニ涉ル全体ノ人ニ
 丁ラス此一行ハ洪水ノ氾濫ニ依リ鐘毒ノ
 家宅ヲ侵害セリ刻下衣食ニ窮スルモノ及
 其付近ノ人々ニシテ渡良瀬附近二十余ヶ町村
 中被害激甚地人々ニ過キス然レトモ其廣衰
 ハ東西十六七里ニ涉ルヲ以テ被害人互ニ知己
 ノ人ニシテ有様ナリシモ各居村ノ被害氏等ハ
 同舟相憐ノ情ニ依リ糶米相擁スルモ臺ニ喧噪
 ス又謹慎自ラ持スルノ情實ニ愛スバクモノア
 リヨ正造乃チ村長及巡査一名ヲ伴フテ社頭ニ
 上ル社掌ノ神官亦斡旋最モ懇篤ナリ馬々警視

総監官房第一課長石川三至、暫し
 陸軍憲兵大尉安山重朝、少尉桐生定政等相
 次り至り、千住警察署長某亦警部一名ヲ随ハテ
 至ル時ニ請願人中再々泣訴、声ヲ高メ来ルニ
 ノアリ訴ヘテ曰者々ハ「昨夜未嘗テ一睡セリ
 ハハミナラス、刺ハ憲兵ノ為メニ降蹶セラシメ
 中崎王警察官吏ハ請願人ノ飲食ニモテ干涉シ
 村長等ニ嚴命シテ炊事用ノ鍋釜ニテモ貸與セ
 シメズ其酷待實ニ悲憤ニ耐エラレムノアリト
 泣訴、声ハ変シテ憤怒ノ声トナリ四方相呼應
 シテ喧囂漸ク其度ヲ高ム此ヨリ先ヨ正造ハ村
 長ニ囑シ白米五俵ヲ購フテ食事ノ準備ヲナス

電話新橋一三二七京橋區加賀町一協信舎印行

炊爨ヲ作ルルニ凡七八ヶ所村長村會議員
 身ヲ以テ手ツカラ握飯ヲナシタリ正造午後二
 時請願人ノ居レテ猶未ダ至リルニ漸ク此
 時ニ至リ来リ會スルニ陸軍多シト多時機ノ
 後ルカ恐ルカ故ニ正造ハ殊更ニ巡査一名
 ト軍人大尉少尉二人及警視警察ノ官吏六人ト
 土地ノ村長議員等ヲ立會ハシメテ言論ヲ託臆メ
 ヤシトハ注意ヲ促シ而テ後々社頭ニ立テ大勢
 ニ向テ左ノ趣旨ヲ演説ヲシタリ
 皆様私シカ田中正造ヲアリモス知ラヌ御方
 ノミナリテアラスカ中ニハ寸中ノ一位ハ私ヲ
 シル人ニアラズ然レトモ皆様カ大勢出京ノ

理由ハ正造能ク之ヲ知トリ實ニ本月ノ大洪水
水ハ又々鐘毒ノ侵害ヲ加ヘ二十九年ノ洪水
ヨリハイクテ水量ハ低クケレハ山岳ノ崩
落ト河床ノ埋没トニヨリテ却テ水量ヲ高メ
又洪水ノ連達一層急激ニシテ水量相嵩ニ忽
チ堤塘ヲ没シテ村落ハ鐘毒ノ泥水中ニ没セ
ラシ家屋ハ毒浪ニ漂ラテ浮リ流リル、又、
其悲惨想像ノ及ハルル極ニ達シ茲ニ不得已
万庖ヲ肩シテ出京セシモノナラシ一昨年
ヨリ昨春ニ涉リ數十ヶ町村長カ連署ノ上地方
廳ヲ經テ中央當局諸大臣及帝國議會ニ再
度ニテ憲法ニ律ノ保護ヲ與ハスレ度者ノ請

電話新橋一三二七(京橋區加賀町)協信舎印行

願書ヲ奉呈シ其他大小ノ請願陳情書等呈出
セシモノ前後相繼リ其種類極メテ多キニ聞
ハラセ議會ハ解散ノ趣ヲ重ク政府ハ之ニ對
シテ何等ノ処分ヲモ爲カサルヲ以テ請願ノ
返答ニ政府ニ要ムル爲ニ農商務省內務省
ノ門前ニ至リテ返答ヲ得ルマテハ餓死スル
ニ退カザルトノ決心ヨリ出京セテシタルニ
相違ナク其衷情ハ真ニ罄スルニ至リテハ次
チナリ
皆様何故ニ足尾銅山鐘毒被害人ニ限リ多年
間憲法ニ律ノ保護ヲテ所有權ハ犯リテ教育
無視ニテ衛生ハ害リテ田園ハ荒ラサレ

譯テノ生業ハ損害ヲ受ケ且ツ停止セラレテ
居ルノテアリマス。是レ皆人爲加害ニシテ
現今ノ法律ヲ以テハ如何トモ爲スヲ得ル
モノナリ例ハ財産ヲ失フテ公権ヲ剝奪セ
ラレ、如キ是レナリ通常無毒洪水ノ爲メ荒
地免租トナリ又ト今時ニ公権ノ消滅スルハ
被害民ト云トモ能ク信スル処ナリ今鐘毒ノ
タノ免租ト今時ニ公権ノ消滅ニ至ルト云
モ此ヲ存続セシムル法律ヲ、従テ存続セシ
ムルヲ欲ハサルハ現行法律ノ処分トシテハ
尤モナリ然リト云凡人爲ノ加害ヨリ財産ヲ
奪ハレ生命ニ奪ハレ權利ニ剝奪セラルルハ

電話新橋一三二七東京橋區加賀町一協信舎印行

理由ナレシ財産回復スレシ公権ニ利存続スレ
ト云ノ被害民ノ云ノ処又当然ノ理由ナレ
ハ双方ノ主張各確乎タル一理ナリニ互ニ衝
突ヲ免カレリ。次チナリ又町村制々如キモ
此ノ被害地ノ実力ナク即チ自治ノ力ナク従
テ公権ノ消滅シ町村制ヲ破壊。至リ町村
制ハ爲メニ反古トナリテコレヲ執行スル
ハナル法律上名譽權利財産ヲナシ滅ハ町村
ニ対シ地方官ハ如何ナリ正式ナリ町村制ヲ
適用シテ無害地全様ニ國家ノ事務ヲ監督シ
已ニ高級ノ職勢管掌更ニ派出シテ無財産ノ
町村ヨリ町村税ヲ徴収セシトス而テ其町村

破滅ノ実況ヲ隠蔽シテ鑛毒加害ヲ示ラズ
ニトス如此事々物々法律ニ蔽マラサルハ鑛
毒被害地ノ惨状処分ヲ独リ堤防改修増築
及請願権ニ就テハ今其現行法律アリト云ハ
其他ハ相当ノ法律ナク又鑛業全例等有功ノ
法律ナラシヒ政府ハ之ヲ以テ人民保護ノ実
行ヲナサハル爲メ常ニ衝突ヲ免カレリトナ
リ又其損害ニ至ラズ有形無形ノ損害ハ計ル
ヘカラス僅カニ十九年ノ計泉ト三十年ニ於
ケル人民ノ損害ト國家ノ損害トノミヲ合セ
ラズ有形上ニ於テ四千万圓以上ニ至ル可ク
此他無形ノ損害ト間接ノ被害ト及ヒ官有林

電話新橋二三七(京橋區加賀町)協信舎印行

野池沼河川魚獵禽獸及虫類ノ捕獲ヲ以テ生
業ヲ営ムモノ數千ノ多キニ及ビタリシニ皆
悉ク其業ヲ廢スルニ至リ且ツ衛生ヲ害セリ
シタル爲メ怪シムヤキ病ノ者ヲ生シ生業ヲ
廢セラシタル爲メ會苦骨ニ徹マシニ至リ女
ル等其教放擧ニ違アテズ乍併正造ハ社會ノ
秩序ヲ保タシカ爲メ諸君ニ圖ラカシテ得ズ
則テ斯ノ多勢入京セラルハ不可ナリ正道
ハ自ラ者ニル所アルニヨリ御止メ申ワレ
テ得ズ凡此ノ如キ一大國家問題ニ就テハ當
局ノ責任者ハ勿論國家ノ志士仁人及其他渾
テ先覺名譽アリモノハ此被害者ニ先テ其

責ヲ負フモノナリ 就中改法家ハ國家ノ憂ニ
元ンレテ之ヲ憂コル是レ改法家ノ本分ナリ
又尙尙者ナルモノ、責任ニ主テハ更ニ之ヨ
リ重シ畢竟請願書ノ出ルヲ待テテ然レ云
々スルハ幸ノ事ナリ請願ノ出テカハ先テ
テ之ヲ処分スルヲ以テ責任ノ至リト云フナ
リ今ヤ諸君ノ慘状ヲ見テ諸君ノ訴ヲ見テ改
府之ヲ救ハス社會亦之ヲ救ハリルヤカラ
ルハ勿論ナレトモ立法院タル衆議院モ本年再
度ノ解散改換トナリ新任ノ議員モ多クアリ
新政府ハ加害被害ノ事情ヲ知ラカレ可カラ
ルハ若シレバ内閣ノ交迭屢ニシテ農商部大

〔電話新橋一三二七〕〔京橋區加賀町〕〔協信舎印行〕

臣ハ九ケ年間ニ十人ノ交代トシ、實ハ新任
ノ内閣新任ハ役人ナレバ是亦加害ノ激被害
ノ慘ヲ知ルモノ少クシ被害民ノ不幸ト加害
者ノ幸福トハ大差ヲ生ミタルモノアリ又古
顔ノ役人アリトテモ尙尙者ニアテテカ
ハ此被害民ノ慘状十カ一二ニ知ルモノナレ
又尙尙者責任ヲ分ツモノ數十課アリ實ニ
鐘毒被害問題ハ他ノ普通洪水乃至地震噴火
海嘯大災等ノ如ク淡泊ニシテ單純ナル問題
ニアラス又社會ニ大災震災等ニ對スル如
キ終睦ヲリ隨テ同情ヲリ今古未有ノ問題
ナレトモ尙尙者ニアテテカハ役人ハ如何ニ古顔

ノ者ト云ハ其状況ヲ知ラザルカ爲メ之ヲ如
何ト云ハ乃ル克ハス
顧ミレハ昨春鐘業傳止請願ノ爲メ数千人ノ
被害人生登入京セリトセヒ片ニ諸君ハ利根
川ノ橋ヲ撤セラレ寒風肌ヲ裂クノ候迄寒針
ヲ以テ刺ス如キ水中ニ飛込ニテ幸ラキ者自
ラ橋ヲ架シテ渡リ又埼玉縣岩槻ニテハ巡查
敷十人ノ突貫ニ道ヲテ散乱負傷シ漸ク板橋
爲ニ達セシメノハ六七百名ニ過キスト云フ
ト多ク此間不馴ノ旅行ト寝食ノ欠乏ヨリレ
テ帰宅ノ症病ヲ死スルモノ下野ノ安蘇郡界
村大字高山ノニテ二人而シテ此死之者ハ

電話新橋二三七(京橋區加賀町)協信舎印行

孰レモ皆老人ナリ高山ノニテ二人アリト
スレハ全体ヨリシテ云ハハ二三十人ノ病此
者アリシナラント信ス今回ニ亦此轍ヲ踏
或ハ病臥斃死スルモノ等ナシト云ハス若
シ農商務内務ノ門前ニテ死スルヲ得ハソレ
ハ諸君ハ満足ナラニモ去ル次亦ニモ行カス
ニテ帰國后病ヲ癸シテ死ニ至ル等アラハ実
ニ残念ノ次才也
國家如此不幸ノ民アルヲ知ラハ官吏及議
員ノ如キ皆率先決心死ヲ以テ之ヲ救フヘキ
責任ノアルモノナリ彼ノ兵隊ニ就クモノヲ
看ミ日清戦争ヲ見テモ知ルヘシ莫大雪ヲ肩

欽ヲ突テ陣頭ニ此スルモノ多キヲ知ラズ
ヤ叔國家ノ為メ此スルハ兵ノミノ責任ニ
テ軍人及ヒ一般ノ官吏ニ立法院ニ然ルモ
ノアリ兵士ノミヲ以テ國ノ盾ノニ成スル
ノト思フハ大々的誤リナリ
第一正造ハ日本ノ代議士ニシテ亦其加害被
害ノ顛末ヲ知ルモノナリ故ニ衆ニ先ケテ各
力スハキハ正造カ当然ノ職分ナリ諸君已ニ
非命ニ斃ルヲ見ル正造ハ諸君ノ此ニ先ニ
テ此ヲ決セリルヲカラス然レハ新政府ハ未
タ此慘状ヲ知ルモノ少キハ前ニ正造カ述
スル如クナレハ新政府ノ人々ニ説明シテ被

電話新橋二三七二京橋區加賀町一協信會印行

害ノ慘状ヲ陳述スルハ一大必要ナリ何
レハ被害氏ノ身体疲レ且ニ昼夜ニ寢食ヲ欠
キタルモノナリ迎テ兵士ト警察吏ト以テ
橋ヲ撤シ道ヲ振シ渡船ヲ奪フテ渡ル克ハ
ラレモノニ幸殆ト竹籠否此敵ノ襲ハ来ルニ備
ワルモノ、如シ之レ誠ニ事實ニ通ルニ事態
ヲ解セラルカ否ニシテ全ク誤解ヨリ此残酷
ヲ加ヘタルモノナラン
世ノ中ニハ知ラヌモノ程好シクモノハノレ
如何ニ奔走シ如何ニ説明シタラレハ此被
害ノ慘状ト人民若痛ノ真相ヲ披瀝シテ以テ
蘇々願意ヲ貫徹スルコトヲ得ルカ是レ正造

等カ同志諸氏ト共ニ新内閣ニ説明ノ方ヲ取
ラレト欲スルノ決心ナリ
今一ツハ現政府ハ憲政ノ政党ニシテ諸君ノ
地方ニ自由進歩党負ノ少カラレハナラ
ン即ケ諸君ノ中ニハ自由進歩党負ニ少
ナカラレハ今日ノ政府ハ即ケ諸君
ノ政府ナリ又我々ノ政府ナリ我々ノ政府ナ
レハ充分信用ヲ及ハカル処ハ助ケテ
ヲ得ヌヨフテ我々諸君ニ代リ政府ニ事實
ノ説明ヲ採リ諸君ノ願意徹底ヲ計ルベシ故
ニ諸君ノ内ヨリ惣代十名以下ヲ選シテ一全
早ク御帰國ヲ望ム之レ正造等カ只管相

（電話新橋一三二七）京橋區加賀町（協信舎印行）

談ニ及フ所以ナリ
又御帰國ノ上ハ新任知事及大小議員郡長町
村長等ニ充分説明セラルルベシ
等ノ過半ハ或事情ニヨリテ加害者ニ加擔シ
ツ、アレハ充分骨ヲ折テ事實ノ真相ヲ告白
シ以テ彼等ノ妄執ヲ打破セリハハカラス又
専ハラ大小局外者ヨリテ全情者ヲ多ク求メ
協力ヲ願ヒ中央ニ於テ万一政府ハ事實ヲ解
スル後ケニ至リテモ尚処分ヲ急ムルハ正
造ハソレコソ諸君ニ率先シテ諸君ヲ全伴シ
テモ出京セリシ
今一ツハ中央政府若シ正造及全志等ノ説明

ヲ用ヒリレハ正造等ハ議會ニ於テ責任ヲ負
問シ亦社會ニ向テ當局者ノ不法ヲ訴ヘシ其
トテ諸君ハ此事ノ通知ヲ得ハ御出京ニ御隨
意ナリ正造ハ再度決シテ御止メ申スマジ否
ノ實ニ御止メ申ワルニナラズ其時コソ
ハ正造ハ諸君ト共ニ進退スヘケレハ又レマ
テ諸君カ今日此ヲ決シムン生命ヲ保タレタ
レ之ソ正造カ諸君ニ誓フ所諸君奔ルハ採用
アツテ今回多數ノ入京ヲ止メ速ニ帰國アラ
ハ、様正造ハ嘸ヲ云ヒマセン申シ述ヘタレ
通りニ実行イタシマス云々
ト演ヘ終リタリ

〔電話新橋二三七〕京橋區加賀町〔協信舎印行〕

請願人等皆静肅傾聴ニ血量ハ感慨禁ズル能ク
ルモノアリテ然ルテ歐敵流涕スルモノ數百人
或ハ聲ヲ放シ悲泣慷慨スルモノアリ坐中皆動
ク悲惨ノ情察スルニ余アリテ正造為メ動
カレテハ坐ニ復セシトシ左右ヲ顧ミレハ憲
兵將校下士卒及警部巡查等一人ノ眼中涙ヲ
モノアツリテ正造此ニ於テカ以爲ヘラテ軍
吏警官モ亦人ナリ此誠實ニシテ血ヲ流サレ
ノ人々ニシテ此憐レハテ被害人ノ行路ヲ妨ケ
刺ヘテ醜遇辱辱知ラズ是果シテ何ノ為メソ
道路辱罵スルモノアリ日ク加害者古河市兵衛
ハ行政官及軍人ヲモ左右ニ使役スルモノナリ

ト正造、其何ノ謂タルヲ知ラス惟フニ上下意
志相通セス互ニ相誤マラハ、ノ致ス所ヲラシ
漢説終ル下以時請領人中柄本縣人野口春藏社
頭ニ登リ立テ反對ノ意ヲ述テ曰ク
政府ノ泰弁ヲ得ルニテハ此地ニ留リ一寸モ
動カザルニヤシト
群馬縣人亀井明次郎モ亦立テ憲兵ノ暴横ヲ才
、其理由ヲ聽ノレトセリ
一行中群馬縣邑壘郡大島村関口某ハ漢流潛々
廁下ヲ叩テ憲兵警官ノ無情ヲ訴フ正造ハ面前
ニ来リ訴ルカ如キモノ多敷アリ偶々其面ヲ知
ルモノアリレヒ其名ヲ知ラス此ノ時憲兵大尉安

田重朝ハ左部彦次郎ニ紹介シテ以テ一行
ニ向ヒ諸君ノ訴フル如ク憲兵々不法若シ事實
ナラムニハ充分取糾マシキニ依リ負傷者ハ千
住ノ氏所ニ来ルハ述レテ野口春藏一行
ノ利害ハ一行ノ責メナレハ一行カレト云ヒ
一合ハ大聲ニ我々ハ決シテ事實ヲ故造シテ無
キヲ有リトシテ訴ルモノニアラズト喧嘩スル
モノ異口同音又且ツ大尉ハ自ら非ヲ掩フモノ
ヲリト呼子マリ
此形勢ヲ見ルヤ千住警察署長ハ處然坐シ云ツ
テ帰ル是レ大勢ノ如何トモスル能ハザルモノ
ト判断シテ千住ニ馳ヒ歸リ全町ノ橋頭ヲ護ル

準備ヲ勤メタルモノアリト云フ已ニシテ各
村ノ重ミヲルモノハ社頭裏庭ニ會議ヲ開キ衆
議百出ノ后遂ニ正造ノ意ヲ容レ一行中惣代ヲ
撰ミテリ但シ正造ノ十人以下ナルヲ五十人ト
改メタリ
右相談ノ結果ハ大出喜平八尋之ヲ報告ス
此時請願人中亦憲兵警察、横暴ヲ訴フルモノ
アリ一々憲兵出所ニ赴カント喧嘩セシモノ亦
克ク之ヲ制スルモノアリテ漸ク止ムヲ得タリ
憲兵大尉安田警視總監官房係長石川尋モ辱ク
謝辞ヲ述ヘテ引キ揚ケタリ被害人ハ一々涙
ヲ飲シ信ヲ政府ニ置キ一々善后ヲ約シテ帰國

電話新橋一三二七(京橋區加賀町)協信舎印行

人途ニ就キタリ正造尋モ又今朝未全行セシ
査及ヒ村長義貞等ニ謝シテ訣ル帰途千住橋
頭ノ辺ニ警官數十百人克ク道路ヲ塞キテ旅人
ノ通行ヲ妨グルヲ勤ムルヲ見テ正造直ニ公所
警察署ニ至リ其益ノ妨害ヲ解クレタリ
右ノ次オナレハ警視總監軍人大尉及警察署長
其他ヨリ當時報告及復命ノアリタリ答ノモノ
ノレトモ豈計ラニ尔未内務大臣次官ヲ始メ公
務ノ多忙ヲ名トシテ総代及正造尋ニ免角面會
ヲ避クルニ依リ大ニ疑團ヲ生ムルノ折柄内閣
文送アリタル次オナレハ全儀ヲク當時ノ実況
ヲ略記シテ被害人民ノ慘状ヲ証明スルモノナ

後ニ聞ク此上京セル被害民ハ多耳鐘毒水害ニ
 困窮セルモノニシテ果シテ此上京者ハ数日間
 ノ水害ニ止ムナク毒食ヲナシ此旅行中痛ク寝
 食ノ欠乏アリシ一ニ昼夜間ニ涉リテ露宿ヲ為
 シタル焉ノニ老体ノ如キハ保本間滞在ナリ
 既ニ病トナリ帰郷后倍々病床ニ卧シタルモノ
 多シト云ノ
 又聞ク所ニコレハ此ノ上京被害民ハ鐘毒稀汚
 地ノ被害民ニアラヌシテ極メテ激甚ナル被害
 村ノ窮民ナリ而シテ此ノ行路ノ途中露宿ニ夜
 ニ及ンテ東京ニ達スルノ間寝食ヲ欠テ或ハ妨

電話新橋一三二七東京橋區加賀町一協信舎印行

害セラレタルハ前原ノ如シ而シテ此旅行ハ
 夫費ハハ又實ニ驚クハ被害民ノ御里ヲ出立
 セル時ハ凡ソ一万三千人ノ多キニ及ビ此ノ失
 費ヲ略計セル實ニ左ノ如シト
 一日一人ニ付三十弍ツ、最下等旅費ニ積ル
 モ七千五百山余途中利根川ノ渡船ヲ喰ヒ止
 ムラレ夜間燈カニ一旅ヲ志ヒテ利根川ヲ渡
 リ又タ警吏ノ為メ船ニ送リ歸ケレ此ノ困
 窮ヲ志ヒテ東京府下保本間ト云ノ処迄来リ
 シモノ略三千余名此ノ行路ハ二日ニシテ保
 本間ニ滞留一日トモハ三日ノ一日一人三
 十弍ツ、トシテ最下等ノ旅費ニ積ルニ此ノ

金二千七百圓、最下等淺車ト見稱リ一
人六十八式此金二千〇四十圓入京總代五十
名凡ソ十日間滞在金五百圓金合計金一万二
千二百四十圓ノ多額ニ至ル

右ノ如ク窮困ノ被害民カ一時ニ此ノ非常ナル
矢費ヲテレフ、モ東京府ニ達シ漸ク政府ヲ信
シ總代ヲ留メテ歸國セシハ可憐ニシテ總便ナ
ル良民ナリト謂フヤレ然ルニ何ソ計ラシ政府
ハ此ノ良民ヲ愛護スルコトヲフリス却テ總代
カ内務省農商務省ニ出頭シ極メテ着實ニ面謁
ヲ求メタルニ大臣次官等此ヲ謝絶シ悲慘ハ情
ヲ陳スルヲ得ラシ大タリ乍去明治廿九年以

電話新橋一三二七京橋區加賀町一協信舎印行

未呈出シアル諸請願ノ實踐ヲ請フ為ト目下ノ
浸水ノ救助ヲ求メシ居ニ幾多ノ苦痛ヲ忠ニテ
大勢出京シタルモノナレハ如何ニ酷遇ワルハ
トモ願意ヲ徹底スル迄ハ實際止ム克ハサル次
才ナルニ事ヲ左右ニ托シテ面會ヲ峻拒シタリ
只僅カニ農商務大臣ニ於テ面謁ヲ許セシニ是
亦徒ラニ時日ヲ遷延シ居メニ憂悶ノ情ヲ増シ
シメタルコト幾何ナルヲ知ラス試ニ思ハ此ノ
總代等ハ當時洪水ニ家屋ヲ流亡セリ或ハ壁
落テ棟傾キ記盪マル盡水ハ未ダ其床上ヲ去ラ
カルノ破屋中ニ爰スヘキ家族老幼ヲ残シテ卒
クニ出京シタル者ニ非スヤ然ルニ面會期日ヲ

遷延シタルカ爲メ此ノ間御里ノ老幼旦夕衣食
 ニ叫フノ報類ヲテルヨリ止ムナク恨ヲ吞シテ
 一時帰國セラルヲ得ケルモノ少カラス然ルニ
 此際又悲シムハ前内閣ハ公党中ノ軋輾ニ此
 ハシカ此ノ被害民ノ慘情ヲ顧ルモノナシ如斯
 廿九年以來内閣ノ辱々文送アル毎ニ山林ノ盜
 伐濫伐時ヲ選ハス被害民ハ此迄政府公禄ノ境
 遇ニ挾リ益々荒地ニ沈淪シテ空しく歲月ヲ送
 リ山林ノ濫伐絶ルトオナク山岳倍々荒亡崩落
 シ洪水ノ水量日増ニ教倍シテアルモ被害民
 等ハ憂々爲ス処ヲ知ラズ或ハ兵隊ヲ以テ辱々
 請願ノ進路ヲ妨テラレ或ハ警吏ノ爲メ罪ナク

(電話新橋一三二七)京橋區加賀町(協信舎印行)

此テ永ク獄裡ニ呻吟セシメラレシ等酷遇ニ酷
 遇ヲ重テ乱暴ニ乱暴ヲ経續セラレ今亦一時ニ
 多額ノ失費ヲ致シ或ハ家財ノ紛乱損傷アリ其
 ノ悲惨ノ種目教ヘ来レハ筆舌ノ尽ス能ハズハ
 伏情ナリ刺ハ教百人ノ疾病患者ノ生シタルハ
 此ノ請願ノ行路中皆テ官吏ノ虐待ニ苦シメテ
 レタルヨリ原因シタルモノトモハ此レ憲法々々
 律ノ保護ヲ爲リタルノ極ニシテ寧ロ政府ハ此
 ノ被害民ノ生命ヲ奪フモノナリ實ニ無残酷薄
 ノ至リト云フヤレ被害民ハ今ヤ遺ヲ授シテ請
 願ノ爲ニ奔走スル克ハス悲痛ニ悲痛ヲ重テ其
 極中或ハ怖ル終ニ父母妻子ヲ擧ケテ官衙法庭

二 泣訴スルノ止ムヲキニ至ルノアランヲ然レ
 此正造等ハ再ヒ此ニ對シテ慰諭スルノ道ヲキ
 ノミナラス却テ其泣訴ニ全情ヲ表シテ止マリ
 ル者ナリ政府ト云ハ斯ル無情ノ処ヲ再三ス
 ル者ニハ非ワルニシ現政府ハ果シテ此ヲ以テ
 如何トス
 尚上京者當時ノ実状ヲ探索シタルニ實ニ左ノ
 如キモノアリ記述中或ハ重複ニ直ル但所ナキ
 ニ非ルニ其正確ナラシムヲ欲スルカ爲メ今茲ニ
 詳叙スルコトナシヌ
 九月廿七日午後七時頃請願上京者中先手ノ者
 埼玉縣南埼玉郡櫻井村ニ達ス時曉テ黄昏ニ際

電話新橋一三二七 京橋區加賀町 協信舎印行

マレヲ以テ豫テ用意ノ割麦ヲ炊キテ夕飯ニ充
 テント欲シ二三ノ総代ハ全村々長(深野常三郎
 氏)ヲ訪テ炊具ハ貸與ウ乞ヒシニ許ワレカ立
 度リテハ更ニ再三主リテ懇望スレモ固ク拒レ
 テ應マス終ニハ其門ヲ鎖シテ入ラレノス村長
 ニシテ此ノ如シ此ノ附近ノ民家ニ就キテ求ム
 ルモ容易ニ受諾スルモノナキヤ知ルヤレ漸ニ
 シテ夜十時頃迄ノ間ニ於テ左ノ三ヶ村ノ篤志
 家ニ就キ食物丈ハ之ヲ炊クヲ得タリト云ル素
 ト数千ノ者悉ク之ニ満足ヲ興フルコトヲ得シ
 ヤ中ニハ夕飯ヲ喰ハサルモノモ多カリキ而シ
 テ右一行ノ者ハ或ハ其檐下ヲ借り納屋ヲ借り

苞葍ヲキテ臥スルアリ或ハ路傍ノ樹ノ下ニ草
 毛布ヲ敷キテ臥スルアリ今夜ハ生憎天晴シテ
 露多ク半夜衣服ハ濡シテ滴ルニ至リ寒ク肌ニ
 徹シテ眠ルヲ得リキ
 帰郷后冬熱或ハ下痢症ニ罹リシモノ其十分ノ
 二三ニ居ル是レ蓋シ飲食ノ常ヲ得ガルト兩三
 夜ノ野宿ニ濕氣ヲ受ケシニヨルナラシ今夜炊
 具ヲ貸與シ或ハ家屋ノ一隅又ハ納屋等ヲ貸シ
 上京者ヲ憩ハシメシ篤志者左ノ如シ
 南埜玉郎武里村大字大塚
 小暮吉藏 外未詳
 全郡櫻井村大字大里

電話新橋二三一七(京橋區加賀町)協信會印行

中村喜八 會田友吉 中村才藏 深野権左
 工門 宇田多友上門 永野新五郎
 永野久次郎 藤井清次郎 荒井向三
 全村大字下マ久リ
 金子勲太郎 高橋清次郎 外未詳
 全郡大袋村大字大里
 黒田権藏
 全村大字大林
 瀬尾哲太郎 岩瀬亮左郎 岩瀬喜八
 飯山平十郎 會田豚五郎 會田厚五郎
 會田八五郎 原田金次郎 瀬尾子之吉
 瀬尾常吉 瀬尾平次郎 上原亮四郎

野沢石五郎

一行中ハ食ヲ炊アルニ携帶ノ品既ニ尽キタ
ルモノアリ鍋釜ヲ借ルト共ニ保ヒテ之ヲ求メ
買フモノアリ或ル家ニテハ其代價ノ半額ヲ支
ケ其類ヲハ之ヲ患ヒ而シテ人ノ問フアニハ其
全額ヲ拵ヒタリト謂ハレシト望マレタリ此
レ蓋シ陰徳ニ出ルモノカ將タ或ハ他ニ蟠ル事
情アリテ然ルカ櫻井村ニテ炊具ノ得難ク居ノ
夜ニ及レテ大沢又越ケ谷ニ至リタルモノアリ
上京者一行多クハ昼夜兼行兩日ニ涉リ夜ハ屋
外ニ露ニ曝カレ飢ヲ患ヒ寒ヲ凌キテ此ニ至
ル居ノニ疲労者アリ或ハ病人トナレルアリ此

〔電話新橋一三二七京橋區加賀町一協信舎印行〕

等ノ者ハ同志ノ懐口ヲ寄マテ此ノ二駄ノ旅店
ニ泊セシメント欲シ行キテ之ヲ求メシニ此時
既ニ旅店ハ巡査憲兵ノ專占スル所トナリ教多
ク二瞬ノ旅店ニシテ上京者ニ爰ヲ割キ病者ハ
一人ヲモ惣ハシクルモノナキニ至テハ殆ビト
至情ノ極莫ハス涙潛モトシテ禁スル免ハサリ
キ此等ノ者ハ止ムナク此處ヲ去テ越ケ谷駅ノ
南外ノ字瓦曾根ニ至リ街道ノ東ナル觀音堂ノ
境内ニ樹木アリ田圃ニ溝渠ヲ以テ又此處ニ到
リ憩フモノ百數十人皆病者疲労者ナリ然ルニ
因ラザリキ深夜憲兵人數少クテ見カケテ又
茲ニ来リ已シ等帰レ帰レト身ヲ以テ縦横ニ

馳ケ廻リ暴虐ヲ極ム衆方ノニ愕キ或ハ溝渠ニ
落ルアリ或ハ馬ニ踏コル、アリ其城虐能ク筆
舌ノ尽ス所ニアラス壹ノ西ニ當リ少シノ名レ
テ旅店アリ(俗ニ栢八ト呼バ由此ノ疲カレシ者
深夜路傍ニ横卧シ居ルヲ見テ憐レトヤ忠ケニ
裏庭ニ席ヲ敷キテ休シム憲兵亦店頭ニ来リ
被害民カ居タラ出セト迫リタリ右ノ上京
者、其城虐ニ居理マラ夜ヲ破シテ出京ス凡
月廿八日午前八時頃上京者先手ノ者ハ東京府
下南足立郡洲江村大字保平間ニ於テ(千住ヲ云
シ界一里ノ処)東京ヨリ代議士田中正造氏巡查
一名ヲ随ハ来レルニ邂逅ス代議士ハ上京者一

〔電話新橋一三二七(京橋區加賀町)協信會印行〕

同ニ聞カシムヤキアリ過強テ一行ヲシテ此
ニ止コラシム定シタ
全村々長坂田正助氏其他有志者等ノ斡旋ニ依
リ全村天満社境内其他数ヶ所ヲ以テ上京者ノ
休息所ニ供ス代議士ハ足後レノ者大体揃ヒタ
リト聞キ更ニ一同ヲ天満社ノ境内ニ集メ午後
〇時三十分頃代議士ハ後レ馳ケ加ハ、リタ
憲兵將校又警部等ヲ立會ハシメ社頭ニ起ケ議
々長時間ノ説諭ヲフレ総代ヲ選ビテ上京マシ
ソ他ハ皆帰ルヤキヲ以テス上京者一同ハ憲兵
等余リノ虐待ニ憤激一方ヲス又容易ニ聞クヤ
キ、色ニ見、リリシカ午後四時半頃迄ニ漸ク

協議成、友記、者総代、選コレ、上京スル、

二決、其他一同帰途、託ケリ

栃木縣安蘇郡植野村

界村

野口春藏

大伏町

須藤曼吉、小曾根信吉、石井三郎

鮎倉慶三郎、藤浦貞藏

足利郡久野村

稲村興市、室田忠七

吾妻村

電話新橋一三一七、京橋區加賀町一、協信舎印行

夜日植吉、寺島伊勢松

筑波村、坂本興三郎、中村庸四郎

毛野村

須永豊作、若崎依十、上武孝十郎

小野寺三次郎

栗原村

荒山伸次郎

山前村

増田関吉

群島縣色樂郡大島村

大出善平、音不全次郎、山原采四郎

渡良瀬村

本村勇吉

多々良村

福田和壽藏

永沼政吉

田入利三郎

大筒野村

十島京威

有藤弥市

川田景吉

飯島新太郎

海元瀬村

市沢萬平

針谷虎吉

松本英一

伊奈良村

高際美十郎

高際清吉

赤羽村

坂村徳次郎 渡辺弁藏

電話新橋三三二七 京橋區加賀町一協信會印行

西谷田村

北山清次郎 野中虎四郎 長谷良十郎

御谷村

越次丑次郎 坂村久次郎

山田即桐生町

水野茂吉

毛里田村

中島安五郎

埼玉縣北埼玉郡利島村

石川一

川邊村

井田兵吉 田口直吉 増田弥五郎

栃木縣下郡賀郡谷中村

茂君近助

外住所不詳

榎田元三郎 福山貞藏

而ニテ右總代等ニ一家ヲ毒水ノ裡ニ残シ置キ
ムルニ依リ永ク滞京シテ請願事務ニ余之ニル
ヲ得ニ西三名ヲ残シテ不存意ナカラ引返ハサ
サルヲ得カルノ哀情洵ニ憐ムヘキ極ハミト謂
フベシ又九月三十日東京府南足立郡長千石印
作ト今郡河江村々長坂田正助氏論談ノ一端ヲ
記セシニ九月三十日河江村々長坂田氏南足立
郡町村長會議ニ列ス折柄他町村長ハ坂田氏ニ

電話新橋一三二七(京橋區加賀町)協信會印行

対シ皆丈々ニ前々日上京者ニ對スルノ勞ヲ謝
マシレタリ独リ郡長ハ村長坂田氏ニ向ヒ何故
ニ上京者ノ辱メニ斡旋セシヤト其理由ヲ問ヒ
且ツ其處置ヲ詰ル村長坂田氏ニ代議士田中正
造ヨリ憲兵警察官等立會フテノ頼ミナリシ故
時直ニ然ラザルヲ得リル者ヲ并疏ス
郡長詰勢ヲ強メ何故拒絕ワレリト問フ
村長拒絕シナケレバナラヌト云フ理由ヲ及問
ス郡長若シ失策ニナツタラハ本郡一般ノ面
目ヲ汚シ次弟ニ其様ノ事カマルニテ也通報
シナイノデスト村長其様ノ事ニ迄御差因ハイ
リマスマイ私ハ私シ一巳ノ料簡デ百計ラウタ

ノテスカウ及合間違カ出未テ死ニ至ルモ悔ヒ
マセヨ即長何ニモ人ノ居ニ死ヌ一ハアルマ
ト冷罵村長ヲ辱ム村長責下ハ行政上ノ職權ヲ
以テ具様ノ事ヲ云フノク或ハ誰クノ差因デ云
フノテスカト即長ソウ細カニアレバ此所テハ
答弁セヌカウ即長所ニ来ルハし村長私ノ方カ
ラ即長所迄行ッテ聞ク必要ハアリマセヌ云々
ト以上ハ即長ト村長トノ間ニ於ケル一場ノ議
論ニ過ラヌト多ク亦以テ当時実況人一端ヲ窺
フニ足ルベシ

明治三十一年十一月 日奉呈

電話新橋一三七一京橋區加賀町(協信舎印行)

本問題ハ多年ニ亘ル國家問題ニシテ前合ハ本
年九月廿六廿七廿八三日間ノ出来事ニシテ前
内閣ニモ奉呈致シ置立得共猶茲ニ奉呈仕矣
明治三十一年十一月五日

栃木縣岩舟郡旗川村
田中正造

昭和二十一年十一月八日
東京府知事 櫻田 廣
東京府立第一高等学校
校長 櫻田 廣
東京府立第一高等学校
校長 櫻田 廣

東京府立第一高等学校
校長 櫻田 廣



電話新橋二三一七 京橋區加賀町 協信舎印行

右抄出ノ方面

大隈内閣各省大臣
山縣内閣各省大臣
十三議會兩議院





